

「体験活動推進員養成研修会」

1 趣 旨

- ・「体験の風をおこそう」運動のさらなる充実に資するため、体験活動の重要性について理解を深め、地域の青少年等への普及を推進する「体験活動推進員」の養成を図る。
- ・様々な活動で子供と関わりのある人が、青少年の現状と課題を知り、体験活動における安全管理について体験を通して学ぶ機会を提供する。

2 事業の概要

- (1) 期 日 ①安全管理研修編 平成 29 年 7 月 13 日 (木)
 ②講習編 平成 29 年 10 月 2 日 (月)
- (2) 参加者 ① 21 名 ※募集 30 名
 (公民館職員 12 名、児童クラブ指導員 8 名、放課後子どもクラブボランティア 1 名)
 ② 19 名 ※募集 30 名
 (公民館職員 12 名、まちづくりセンター職員 2 名、児童クラブ指導員 5 名)
- (3) 日 程

①安全管理研修編

7/13 (木)	9:00	9:15	9:30	10:30	12:00	12:15
	受付	開 会	講義 「青少年の体験活動の 意義と実際」	安全管理研修 「体験活動の安全管理」 バウムクーヘンづくり ・火を扱う活動の安全管理	閉 会	解散 ※希望者は昼食堂でバイキング

②講習編

10/2 (月)	9:40	9:50	10:00	11:00	11:50	12:00
	受付	開 会	講義 「青少年の現状と課題」	情報交換会	閉 会	解散

3 事業の内容

(1) 事業の特色

本事業は、体験活動推進員養成講座共通カリキュラムに準拠し、「青少年の現状と課題」「青少年の体験活動の意義と実際」「体験活動の安全管理」の 3 科目を受講することで体験活動推進員の登録申請が可能となる。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

本事業では、参加対象を学校支援ボランティア、放課後子ども教室、放課後児童クラブ関係者、公民館職員等としているため、多くの人が業務の支障がなく参加しやすい午前中だけの研修会とし、内容を 2 回に分けた。①安全管理研修編の安全管理研修では、火を使った活動をテーマとし、講義だけでなく、本施設で提供しているアウトドアクッキングのバウムクーヘン作りの演習

を通して行う。②講習編では、講義の後、情報交換会を設定し、参加者同士、日ごろ感じている課題を話し合ったり実践例を紹介し合うことで、共に地域の青少年等へ体験活動を普及していくとする機運を高めることをねらいとしている。

4 成果と課題

《成 果》

- ・講義では、参加者のアンケートに「青少年をとりまく環境について、数字などを通してよくわかった。データを見るといろいろな面で納得できるし今後のことも考えられた。」「子供たちにとって体験活動が大切であると再認識した。」などの記述があるように、機構が行った研究結果や交流の家での体験活動の紹介等を通して、参加者は青少年の課題や体験活動の重要性を理解することができた。
- ・①安全管理研修編では、講義だけでなく、実習を織り交ぜながら研修会を実施した。参加者のアンケートに「講義からバウムクーヘン作りの実習を通して、実際に火を使った活動をしてみることでわかることが多くあった。」「見逃しがちなところに危険があることがわかり、気をつけないといけないと感じました。」との記述があるように、参加者は実際に自分が体験することで普段意識できていなかったことに気付くとともに、安全管理の重要なポイントを確認することができた。
- ・参加者のうち14名が、両日の研修に参加し、体験活動推進員に登録した。

《課 題》

- ・今回は大田市教育委員会社会教育課と共催で実施し、参加者も全て大田市内の公民館、放課後児童クラブ職員等であった。しかし、公民館の職員や放課後児童クラブ等は、職員の入れ替わりが毎年あるわけではないため、新たな体験活動推進員の登録を増やすためには、今後他のエリアを対象としたり、範囲を広げたりする必要がある。
- ・両日ともに午前中みの日程で開催したことで、多くの人に参加してもらうことができたが、時間が少なく、実施できる演習のプログラムが限られてしまった。また、どちらかの研修会にしか参加できなかった人は体験活動推進員の登録ができなかった。
- ・体験活動を推進する人たち自身にも、様々な体験活動の良さを実感してもらうことが必要であると感じている。充実した研修会となるため、また1回の参加で条件を満たせられるようにするため、1泊2日の構成にするなど日程・内容の検討が必要である。

(担当：企画指導専門職 辻田 渉)



講義「青少年の体験活動の意義と実際」受講の様子。



安全管理研修では、バウムクーヘン作りの実習を行った。



野外活動中の絵の中から「ヒヤリハット」をみんなで探す一面。